

第2回気候変動を踏まえた庄内川下流部の対策検討会 概要

開催日: 令和2年10月22日(木)

- 「気候変動を踏まえた治水計画のあり方」提言(以下「提言」とする)を踏まえ、議論を進めているところであるが、本検討会では、経済性にはこだわらず幅広く治水対策メニューを検討し、また治水対策メニューに応じて河川整備基本方針の変更も適宜視野に入れるものとした。
- 庄内川では、総雨量や降雨継続時間等に、大きな経年変化は見られないが、近年の近傍河川の状況等を考慮すると、庄内川でも東海豪雨以上の浸水被害が発生する恐れがあるとの認識をもった。
- 提言による2℃上昇(計画降雨量1.1倍)での、現況河道での被害リスク(被害ポテンシャル)を確認した。
- 庄内川で考えられる気候変動を考慮した治水対策メニューを抽出し、「新規ダムの建設」、「ダムの有効活用」、「遊水地の整備」、「放水路の整備」、「河道の掘削」を中心に効果等の具体を検討することについて了解いただいた。

【委員名簿】

赤堀 良介	愛知工業大学	准教授
武田 誠	中部大学	教授
◎辻本 哲郎	名古屋大学	名誉教授
富永 晃宏	名古屋工業大学	教授
原田 守博	名城大学	教授
松尾 直規	中部大学	名誉教授
◎座長 (敬称略、五十音順)		



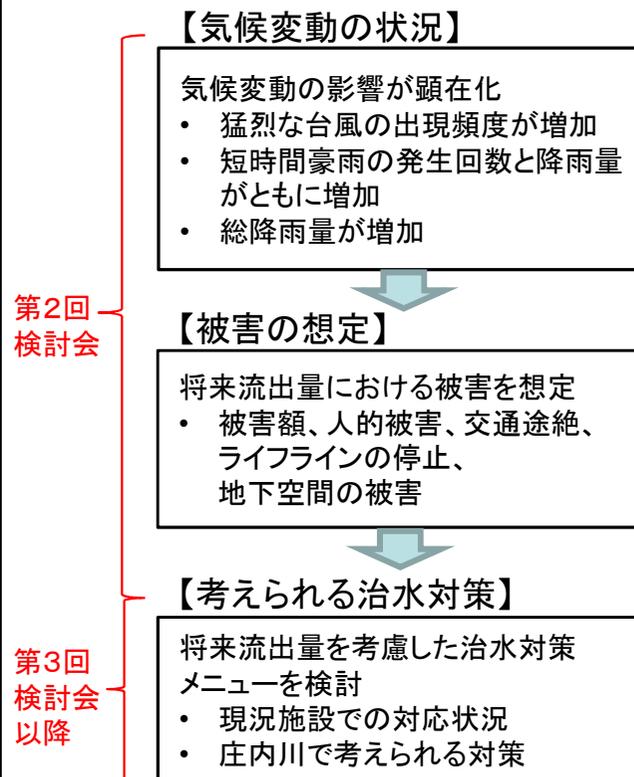
検討会の様子

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、委員はWeb会議方式で出席

【委員からの主なご意見】

- 新たな河川整備計画を立案していく上では、優先的に守る地点の具体箇所を明示すべきである。
- 提言で示されている気候変動による降雨変化倍率を庄内川の計画に用いることの妥当性や、様々に想定される外力のシナリオについて検討をしていくべきである。
- 調節施設等の議論をする際には、流量配分を細かく示し、基準点以外での効果の検討も必要である。
- 庄内川流域治水協議会での議論も踏まえ、「流域治水」を考慮した、河川整備基本方針・河川整備計画の新しい方向性も今後整理されたい。

【検討の流れ】



※検討会の議論内容により変わる可能性あり